

【平成 26 年度・前期学期・ミクロ経済学の発展理論・課題 2】

☆ 平成 26 年 12 月 1 日 講義開始時締切

【問】今、A・B 二人の経済主体が、リンゴ（R で示す）と梨（N で示す）の 2 財を交換する純粋交換経済で取引しているとする。この二人の効用関数が

$$U_A = \min(2R^A, 6N^A)$$

$$U_B = 2(R^B)^{0.5}(N^B)^{0.5}$$

で表されている。それぞれの主体に賦与されている財の量が以下のようなものである

$$A \text{ に対する賦与量} : (\omega_R^A, \omega_N^A) = (3, 5)$$

$$B \text{ に対する賦与量} : (\omega_R^B, \omega_N^B) = (7, 10)$$

また、この二人の交換に裁定人が介在し、財の市場価格をリンゴについて 15、梨については 60 としたとき、後の問に答えなさい。

- (1) A、B それぞれが賦与された財全体が市場においてどの程度の価値を持つものか示しなさい。
- (2) A、B それぞれが、賦与された財の市場価値を予算として効用最大化したとき、A、B それぞれのリンゴと梨の最適需要量を求めなさい
- (3) (2) の状況を表すボックスダイアグラムを描きなさい。
- (4) (2) (3) の情報をもとに、梨とリンゴの交換において超過需要となる財があるか論じなさい。また超過供給についても論じなさい。
- (5) (4) の状況から、裁定人が市場価格を設定しなおすとすると、どちらの財の価格を上げ、どちらの財の価格を下げるか議論しなさい。